

豪州準備銀行は労働市場を注視しつつ政策金利を据え置き

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを決定。RBAは堅調な労働市場を考慮して利下げを見送った模様。
- RBAは「労働市場は力強さを保っている」との評価を維持。当面のRBA理事会では労働市場の動向を注視する方針。
- 豪ドル相場は国内外の不透明感から軟調な展開。当面は豪・米金利差や豪貿易黒字、米中貿易協議が注目点。
- 市場は年末までのRBA利下げの可能性を大方織り込む。豪州の貿易黒字の拡大が実需面から豪ドル相場を下支え。

RBAは堅調な労働市場を考慮して利下げ見送り

豪州準備銀行(RBA)は5月7日の金融政策理事会で、30回連続の政策金利据え置きを決定しました(図1)。

今回のRBA理事会では、2019年1Qの消費者物価指数(CPI)が前年比+1.3%へ急低下していたことから(基調インフレ率も前年比+1.4%へ低下)、市場関係者の間では利下げ派と据え置き派で事前予想が割れていました。

今回のRBA理事会の声明文からは、RBAは引き続き堅調を維持している労働市場を考慮して、早期の政策金利の引き下げを見送ったものとみられます。

RBAは2019-20年の豪州景気見通しを維持

5月は3か月に一度のRBAの経済見通しの改定タイミングに当たります(経済見通しの詳細は5月10日に公表予定)。

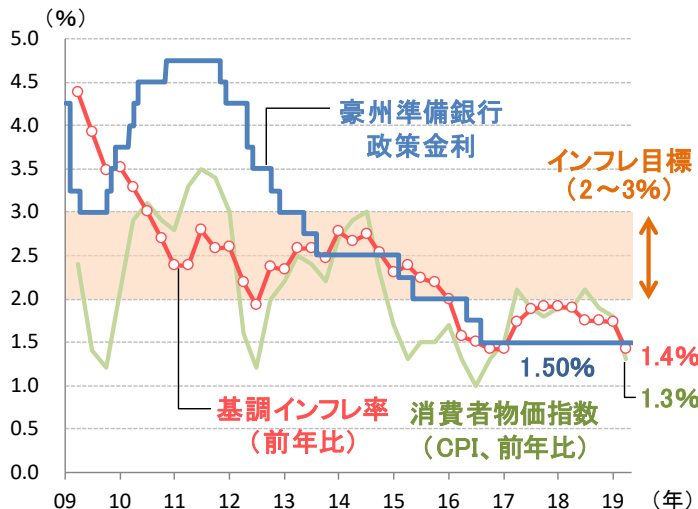
今回の声明文では、2019年と2020年の豪州の実質GDP成長率の予想はいずれも約2.75%と概ね据え置かれた模様です。RBAでは、インフラ投資の拡大や資源セクターの活動回復が今後の景気下支え役になるとの見方を示す一方、民間消費の不透明感に言及しています。

今後のRBA理事会では労働市場の動向を注視へ

労働市場に関しては、足元でも堅調な雇用拡大や失業率の安定が続いていることから、RBAでは「労働市場は力強さを保っている」との評価を維持しています(図2)。

一方、予想外の低下となった1-3月期のCPI統計を受けて、RBAは「今後のインフレ率は上昇が予想されるものの、上昇ペースは緩やかに留まるだろう」と述べ、慎重な物価見通しを示しました。RBAではインフレ率が目標に達するには労働市場の一段の改善が必要との見方を採っており、今後のRBA理事会では労働市場の動向を注視する姿勢が示されました。

図1: 豪州の政策金利と基調インフレ率



(出所) 豪州準備銀行(RBA)、豪州政府統計局(ABS)
 (期間) CPI・基調インフレ率: 2009年1Q~2019年1Q
 政策金利: 2009年1月1日~2019年5月7日
 (注) 基調インフレ率は消費者物価指数(CPI)のトリム平均値と加重中央値の平均により算出。

図2: 豪州の雇用者数増減と失業率



(出所) ABS (期間) 2010年1月~2019年3月

